

小倉支部は、既に述べたる如く、設立當初以來の評議會一派の猛烈なる攻撃裡に、着々基礎を掘へつゝある。教育方面に就いても、充分の努力を拂つて居る。兵庫支部は設立未だ日がないので、具體的活動は今後に屬する。

製綱労働組合としては、調査部を確立し全國各支部の員數、時間の個別的調査を始めたが、進んで衛生、能率、家計等に及ぶ考へである。健實なる組合運動には、眞面目なる調査部の活動は最も必要なものだからである。

製綱労働組合が、一貫して採る處の政策は、日本労働總同盟の労働組合主義に依る現實的指導精神より出づるものである。されば、空想的觀念的急進的なる指導方針は斷乎として排するものである。従つて此組合の指導精神に反する處の組合員は、組合の統制を紊すものであるとして、處罰すること勿論である。横濱支部の幹部の一人が此方針に依つて除名處分を受けたこともあるのである。

製綱労働組合の使命

思ふに、いかなる事業にも多少の難關の伴はざるものなきが如く、我製綱労働組合にも幾多の困難が存在するのである。

一、團體交渉に對する無理解は、労働組合の暗礁である。團體交渉權を得て、團體交渉を行ふ事になつても、必ずしも絕對的に、組合員の意志が盡く貫徹されて、労働條件が組合員の慾望通りに改善されるものではないのである。一つは産業事情に左右せられ、一つは個々の會社の事情に左右せられるのである。例へば、産業全體が非常に好況であるならば、従つて労働條件も改善せられ、不況ならば比較的に改善が行はれ難い事となるが如くである。これは又個々の會社に就いても同じことが云ひ得られるのであるが、異なる産業間には異なる労働條件が存在することも亦止むを得ぬことである。例へば、機械工と紡績工との労働條件が異なるが如くに、かような次第であるから、團體交渉權を得たから、云ひ度い事を云ひ、やり度い事をやるが如き不合理にして